

## 心血管疾患医療連携体制構築に係る圏域の検討について

### 1 医療圏の設定方法

- 二次医療圏の設定に当たっては、地理的条件等の自然的条件及び日常生活の需要の充足状態、交通事情等の社会的条件を考慮して一体の区域として病院における入院に係る医療（三次医療圏で提供することが適当と考えられるものを除く。）を提供する体制の確保を図ることが相当であると認められる区域を単位として認定することとなる。（医療計画作成指針）

### 2 疾病・事業ごとの圏域設定について

- 5 疾病・5 事業及び在宅医療のそれぞれに係る医療連携体制を構築する際の圏域については、従来の二次医療圏に拘らず、患者の移動状況や地域の医療資源等の実情に応じて弾力的に設定することとされた。（医療計画作成指針）

### 3 心血管疾患圏域設定にあたっての分析結果

【NDBによる自己完結率】

<急性心筋梗塞・入院>

	横浜 北部	横浜 西部	横浜 南部	川崎 北部	川崎 南部	横須賀 三浦	湘南 東部	湘南 西部	県央	相模原	県西
H26	68.78	74.57	75.78	51.58	85.92	83.60	82.72	94.01	72.19	85.26	82.88

※横浜市は平成 30 年度から三圏域が一圏域となる予定。

#### ① 患者の受療動向と医療の提供状況（資料 4、5 参照）

- ・川崎北部から川崎南部、横浜北部へそれぞれ約 16～20%程度の流出が見られる。
- ・医療機能の分布をみると、地域によって多少の偏りが生じているが、医師数や冠動脈検査造影検査、治療が実施可能な病院や、大動脈バルーンパンピング法が実施可能な病院など、県全体に整備されている。
- ・県央地域では、急性期医療の機能を担う救急救命センターがなかったが、平成 29 年 4 月に海老名総合病院が救急救命センターに指定されており、地域での急性期医療の充実が図られている。

#### ② 医療機関へのアクセス状況（資料 4 参照）

- ・アクセスマップと人口カバー率は、30 分圏内で 99%の地域がカバーされているため、救急搬送体制は機能していると考えられる。

### 4 圏域の設定（案）

- 3 の分析結果により、神奈川県保健医療計画に併せた圏域を設定する。  
（横浜市は平成 30 年度より 1 圏域となる。）